

海田東小学校校舎建替に関する保護者・住民説明会 議事要旨

日 時：令和7年12月10日（水）19：00～19：45

場 所：町民センター

出席者数：25名

事務局：町長，教育長，教育委員会事務局職員，海田町建設部職員，海田東小学校長，株式会社あい設計

議事要旨

（以下 ○：出席者からの発言，●：事務局の発言）

1 町長開会挨拶

- 皆さん，こんばんは。本日は年末の大変ご多用の中，また夜分遅くにそして，大変寒い中ご足労いただき誠に感謝申し上げます。海田小学校建替プロジェクトはおおよそ2年前に事業に着手し，この度ようやく基本設計が完了し，皆様に新しい学び舎の形を披露できるようになった。これまで，海田東小学校の児童の皆様とのランチミーティング，地域住民の皆様，保護者の皆様，教職員の皆様には，ワークショップを通して大変多くの貴重なご意見をいただいた。いただいたご意見はしっかりと校舎建替の基本設計の中にも取り込ませていただいたところである。これまで多くの機会を通じてこの事業にご理解，ご協力いただきましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また校舎建替にあたり，近隣住民の皆様には大変ご負担をおかけするという事で建築的な手法により，皆様のご負担を軽減する形で建替を進めさせていただく機会を頂いてきたところである。皆様，思うところも当然あると思うが，一定のご理解を頂いたものと承知している。海田東小学校の児童たちが「また明日行きたい」と思えるそして地域の皆様がこの学校が建ってよかったと思って頂けるような学び舎づくりに今後とも引き続き取り組んでまいりたい。今回の説明では基本設計に込められた思いも含めて動画のご紹介をさせていただく予定である。1時間という短い時間ではあるが，どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 基本設計完了までの検討状況

- まず，基本設計完了までの検討状況について，説明する。令和7年3月に，校舎配置やゾーニング，概算事業費，事業スケジュール等を盛り込んだ基本計画を策定して以降，計画で整理した内容を基に，基本設計を進めてきた。策定にあたっては，様々な視点でのご意見を設計に反映できるよう，海田東小学校校舎建替検討部会のメンバーや海田東小学校の教職員・保護者・地域住民の皆様による地域ワークショップ，海田東小学校

の児童代表によるワークショップを開催し、新しい校舎や、校舎の建替えにあわせて整備するグラウンドや校舎まわりなどの外構整備で取り入れたいアイデアを伺った。

- また、海田東小学校に近接する住宅にお住まいの方々を対象とした地域説明会を開催し、敷地南側への新校舎建設にあたり、視線や圧迫感、音等、近隣住宅への影響を軽減するための建築的な配慮手法について説明し、ご意見を伺った。さらに、こちらの表にはお示ししていないが、町議会に対しても、ワークショップや地域説明会の開催状況を含め、基本設計の進捗について説明し、議員の皆様からもご意見を伺った。このように、基本設計の完成に至るまで、様々な立場からご意見をいただきつつ、具体的な検討を重ね、令和7年11月21日付けで、基本設計を完了した。なお、現在は実施設計に着手しており、来年秋ごろを目途に完了させる予定である。

3 海田東小学校校舎建替基本設計の位置付け

- 続いて、「海田東小学校校舎建替基本設計の位置付け」をご覧いただきたい。こちらに、海田東小学校の校舎建替のプロセスをお示ししているが、基本設計では、町が策定した基本構想及び基本計画で整理した内容に基づき、新校舎の設計コンセプトや平面・立断面、構造、設備等の設計方針をまとめている。本日はお配りしている基本設計概要版をベースに、内容を絞って基本設計についてご説明する。なお、具体的な内容については、設計業務を担当しているあい設計から説明させていただく。

4 コンセプト・基本方針

- ここからは株式会社あい設計から基本設計の内容について説明させていただく。まず設計コンセプトについてである。お手元の資料の1ページに同様の内容を記載しているのでご覧いただきたい。「メディアホールを中心に学校全体が居場所となるみんなの学び舎」というコンセプトを基本設計で新たに掲げさせていただいた。これは、学校図書館ゾーン、今回の設計では「メディアホール」と呼んでいるが、こちらのゾーンをはじめ、学校全体に子供たち自らが選ぶことのできる多様な居場所をつくることで、「明日また行きたい」と思える魅力的な空間とすること、そして、メディアホールを囲うような形で室配置を行うことで、学校全体を学びの場とし、また同学年・異学年交流の拠点となることを目指して、このような表現にさせていただいている。また、基本計画で掲げた設計方針を引き継ぎ、これらの5つの柱を基本方針として、基本設計において詳細な検討を行った。それでは具体的な内容をご説明する。

5 建物概要

- こちらは建物概要である。お手元の資料では2ページをご覧いただきたい。今回は校舎と給食室の建替えを行うので、それぞれ「校舎棟」「給食棟」と分けて記載して

いる。校舎棟は、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造で、延べ面積が5,700㎡程度であり、4階建てで高さが約20m程度である。

給食棟は、鉄骨造で延べ面積が660㎡程度であり、平家建てで、高さが9m程度である。これは屋上の設備や目隠しフェンスを含めた高さとなり、建物だけでは4.7m程度となる。

6 配置・外構計画

- 次に配置・外構計画である。お手元の資料では3ページをご覧いただきたい。建物の配置については、基本計画において仮設校舎を設けることなく建設できるよう、敷地の南側としたが、基本設計では、詳細な建物形状や外構計画の検討を行った。真ん中の建物が校舎棟で、西側が給食棟である。東側の既存の体育館は今回の建替計画には含まれていない。校舎棟の北側の整形部分を含めグラウンドを約5500㎡確保し、グラウンド北西に遊具ゾーンや砂場を配置した。また、敷地の北側と南側にそれぞれ駐車場を確保し、南側の駐車場は町民センターから新校舎内に移設する児童クラブの送迎や放課後デイサービスの送迎用車両の駐車スペースとしての利用も想定している。また、正門は既存の体育館の外壁付近までセットバックし、学校に用事のある車が一時的に停車できる車寄せを計画している。そうすることで、歩車分離が明確になり、児童が安全に登下校することが可能となる。また、校舎の昇降口から体育館入口までの通路に屋根付きの渡り廊下を設置し、雨に濡れずに行き来できる計画としている。南門も、歩行者と車の動線を分ける計画とし、児童は給食棟の横を通って昇降口まで安全に登校することが可能となる。また、昇降口は校舎北側の中央に集約し、正門・南門からの歩行距離の差を小さくすることで、スムーズに登校できる動線を確保する。

7 平面計画

- 続いて、平面計画について説明する。お手元の資料では4～7ページであるが、まず4ページの1階平面図をご覧いただきたい。校舎棟は、見渡しの良いグラウンド側に西側から保健室、昇降口、事務・校長・会議室、職員室と並び、東側に印刷室などを配置する。職員室の入口には、児童が気軽に立ち寄り交流が行えるコーナーを設ける。また、日当たりの良い校舎東側に植木鉢観察ゾーンを設け、教職員の管理のもと、児童が行き来できる出入り口を設ける計画している。昇降口から入ると広いエントランスホールがあり、大きな階段で上の階へスムーズに移動することが可能である。また、エントランスホールに面して地域リビングを設けることで、地域の方々の講演やコミュニティスクールの会議など、地域の方々との交流をはじめとした様々な活動が可能な計画としている。また、隣接するエントランスホールやPTA室と一体的に利用可能なスペースとすることで、学年集会やPTAでの活動にも余裕をもって

対応できる計画としている。静かで日当たりの良い南側には大小5つの特別支援教室と、日本語教室を並べて配置する。特別支援教室は大部屋にも出来るよう、壁の一部を移動間仕切りとし、他の特別支援教室に置き換えが可能な計画とすることで、児童の人数変動にフレキシブルに対応可能な計画としている。

- また、特別支援教室からは、南側に設けた専用のプレイコートに直接出られるようにしており、落ち着いた環境で体を動かすことができる。また、プレイコートは縦格子のフェンスで囲うことで、児童の安全性にも配慮する。適応指導教室は校舎西側に配置することで、外から直接出入りができる計画としている。
- 児童クラブは、放課後の児童の安全な移動や保護者のお迎えがしやすい校舎西側の1階に配置している。広さは約200㎡で、学習室と遊戯室に分けて利用することが可能である。また、学校の授業が終わった後は、児童クラブからもテラスを通過してプレイコートに行くことができる計画としている。さらに、2階のメディアホールへつながる専用階段を設けることで、児童クラブの児童が夏季休業期間中などにメディアホールを利用して勉強したり、読書を楽しむことができる計画としている。
- 続いて2階平面図である。まず、普通教室について説明する。普通教室は北側のグラウンドに面し、海田町の自然を眺めことができる眺望の良い場所に設けている。多目的教室を中心に東西に3教室ずつ2学年分を1フロアに並列して設け、各教室の前には移動式の家具や、机を自由にレイアウトできるワークリビングが面する計画である。普通教室は、一般的には8m×8mが標準であるが、今回は8m×9mとゆとりある教室にすることで、児童の学習の場や収納場所をしっかりと確保したいと考えている。また、普通教室とワークリビングの間の間仕切りを多重引き戸とすることで、フルオープンにしてワークリビングと一体的な利用が可能な設えとし、グループワークや図工、書写の授業などで余裕をもって活動が行えるスペースとして活用する。なお、普通教室、ワークリビングは2階から4階まで共通の設えとなる。さらに、校舎2階北側にはバルコニーを設け、運動会の際には、保護者の方が観覧できるスペースとしたいと考えている。
- 次に、基本設計のコンセプトでもメインに位置づけている学校図書館、本計画ではメディアホールと呼ぶものについて説明する。メディアホールは、学びの中心となるよう普通教室と特別教室の間に配置するとともに、これに並べて校舎西側にもまとまった空間を確保することで、使い方に応じて空間を使い分ける計画としている。メディアホールは2つのエリアで構成されており、書架や閲覧など静かな環境で本と触れ合える「静のエリア」、特別教室と一体的に利用でき、実験や工作などの作業や作品

展示が行える「動のエリア」で構成する。「静のエリア」には書架を並べ、司書スペース、閲覧スペース、発表エリアなどで構成する。発表エリアでは、ひな壇状の床に座って発表などを見聞きすることができる。また、3階にもメディアホールを設けており、専用階段で行き来可能としている。「動のエリア」は特別教室に関連する専門書を閲覧したり、2階のスタジオ(=放送室)と一体的となったイベントが行えるなど、工夫によって様々な活動が可能な構成としている。

- 続いて校舎3階である。3階のメディアホールは2階のメディアホールと吹き抜けのある内部階段で接続し、一体的な空間として整備するとともに、各フロアから図書等にアクセスしやすい環境となるよう配慮している。また、屋根のある屋外で読書を楽しむことができるテラスや、屋根形状を活かしたロフトのようなスペースを設け、地べたに座ったり寝転んだりできるなど子供たちがリラックスしながら読書が楽しめる工夫をしている。
- 続いて校舎4階である。現在、災害対策用の備蓄倉庫はグラウンドにあるが、浸水害を考慮して、4階に備蓄倉庫のスペースを確保する。そのほか、児童ワークショップで児童から強い要望のあった更衣室を計画している。以上が平面図の説明である。

8 外観計画

- 続いて、外観計画について説明する。外観計画については、お手元の資料では9ページをご覧ください。こちらは外観計画の考え方で、2つの要素を掛け合わせた外観とする。1つ目は、旧千葉家住宅に見られる西国街道の町家のイメージやこれをモチーフとした海田町役場などの公共施設のデザインとの統一、山・川・海の3つが揃った豊かな自然を育む海田町の情景など、シビックプライドの醸成につながる要素である。2つ目はメディアホールを中心にした学校のコンセプトを捉え、外観から図書の存在を感じられる要素である。各教室の図書を収納する移動式の書棚の背面を海田町の風土色で着色することで、カラフルな色彩が外観に現れるようなデザインとしている。
- こうした要素を踏まえた具体的な外観イメージがこちらとなる。まず、校舎北側の外観である。シビックプライドの醸成につながる要素として、平入の勾配屋根やコンクリート打放しの外壁、軒裏の板張りなどを計画している。図書を感じられる要素には、グラウンドに面してこのようにカラフルな書棚が見えることで、外観に変化や賑わいを創出する。
- 続いて、校舎南側については、近隣住宅が近接していることから、バルコニーや手

摺による視線の遮断や、敷地境界への目隠しフェンスの設置、遮音性の高いサッシの採用、4階の一部をセットバックすることで圧迫感を軽減するなどの対策を行っている。

- 続いて、少し離れた場所から、人の目線の高さで校舎の北側を見た場合のイメージである。スライド左側に体育館に移動する渡り廊下の屋根を設けている。
- 続いて、校舎を南東側から鳥瞰で見たイメージである。近隣住宅から一定の距離を確保して、建物を配置している。西側の給食棟の屋上に、設備の音を抑制する防音フェンスを建物周囲に設置するイメージとなっているが、今後、実施設計の段階で、設備部分に集約してフェンスを設置するなど、範囲を縮小する方向で検討する予定である。
- ここまで、平面計画、外観計画を通じて、校舎の内観、外観イメージを説明したが、より具体的なイメージをお伝えするため、動画を作成しているすので、今からご覧いただきたい。

【動画視聴】

- まずは児童の登校の様子になる。正門から入ってグラウンドを見る状態になる。そうすると左側に校舎が見える。カラフルなところがみえると思うが、これが移動書架になっていて図書を感じられる要素となっている。昇降口と入口までの間には見上げて雨がかけられないエリアがあるようにしている。そして中央に昇降口を固めて確保している。昇降口から入ると子供たちが隠れ家のように集まれるDENのスペースを確保している。そして四方向に流れる階段を上がって、北側を行くと普通教室がずらっと並んでいる状態となっている。普通教室からはグラウンドが見渡せるようになっている。続いて南側の特別教室のエリアの方に歩いていく。こちらが図工室、放送室が見える。メディアホールを見ると、吹き抜けとなっている。この辺りがメディアホールの動のエリアと言われている場所で、特別教室と一体的に利用できる場所となっている。そして奥が静のエリアとなっている。書架を入れて閲覧できるようになっている。その奥が発表のできるエリアである。そのまま3階に上がることができる。3階には読書テラスがある。3階からは、見下ろしと見上げて吹き抜けの空間を見ることができる。4階に上がっていくと、北側に普通教室が並び、普通教室の方に入っていく、自分の席に着席するという朝の登校をイメージしている。
- 続いて先生の動線である。先生が自分の教室から1階に下り、職員室の中に入っていく様子である。広い職員室となっている。次は特別支援教室の方に行く。特別支援教室は外にプレイコートがあり、児童が安心して遊べる場所となっている。そして地

域リビングに戻り、エントランスホールと一体的に使っている様子が分かると思う。

- 最後に放課後、児童が児童クラブに行く動きとなっている。昇降口から出てこちら側を歩いて児童クラブの入口に歩いて行く。こちらが児童クラブの入り口となっており、中に入って行く。児童クラブから専用階段でメディアホールに上がれるようになっている。そこからさらに3階まで上がることができる。あとは全体を見渡せるように上空の方に飛び上がって行く。校舎北側に整形のグラウンドがあり、きれいに囲まれているのが見える。動画は以上となる。

9 今後のスケジュール

- 続いて、今後のスケジュールを説明する。お手元の資料では15ページご覧いただきたい。基本設計が完了し、現在は実施設計に移行している。実施設計では、基本設計でまとめた設計内容を基に、工事発注を行うための詳細な図面と仕様書を作成する。実施設計は来年の秋頃まで行い、その後、工事を行う建設業者を入札により決定する。業者決定後、令和9年の1月に着工を予定、令和10年7月に完成し、夏休み期間を利用して引っ越しができるように計画している。引っ越し完了後、2学期から新校舎で授業が可能となる計画である。その後、現校舎の解体工事に着手し、外構を含めた完成を令和11年8月に予定している。

10 工程ごとの工事区画

- ただ今説明したスケジュールを踏まえて、工事ステップについて説明する。既存の校舎を使用しながらの工事となるため、児童や教職員の安全に配慮しながらステップを分けて工事を行う計画である。まず、ステップ1で敷地南側を工事ヤードとして新校舎の建設を行う。工事中はグラウンドを使用できる範囲が一部制限される。新校舎完成後、直ちに引っ越しを行い、新校舎を使い始めた後に、ステップ2で敷地北側を工事ヤードとして既存校舎の解体を行う。解体工事中のグラウンド範囲はさらに制限される。解体工事が完了した後は、ステップ3で外構工事を行い、建替工事全体の完成となる。今回の工事により、最終的には広く整形なグラウンドを確保することができる計画である。
- 続いて、概算事業費などについて、海田町から説明するので、こちらで説明者を交代する。

11 概算事業費

- 概算事業費について、説明する。基本設計時の本体工事費は、新築・解体工事含めて43億5千万円、附帯工事費は、渡り廊下や屋外トイレ、屋外倉庫、外構工事等を含め3億4千万円、関連整備費は、工事監理費、備品・什器、また厨房機器等を

含め5億1千5百万円で、合わせて税込み52億5百万円である。また、工事発注は令和8年12月を計画しており、今後の物価上昇等により事業費が増える可能性もある。

- 整備にあたっては、できるかぎり本町の財政負担が軽減されるよう、国の補助金等を積極的に活用をしていく予定である。また、実施設計においても具体的な仕様を決定していく中で、コスト面をしっかりと考慮しながら、創意工夫をもってコスト圧縮に努めていきたいと考えている。
- 基本設計の概要については以上である。

12 質疑

- 5ページの給食棟の屋上にあるハト小屋はなにか。
- 設備などの配管を屋上に上げるためのスペースである。
- これまで小学校は防災拠点(一次避難所)になっていなかった。これからは一次避難所になるのか。
- 海田東小学校は、現在拠点避難所という位置づけとなっている。防災計画については、防災課の所管であるが、海田東小学校が一次避難所になる予定はない。ただし、防災機能の充実の観点から、今回の建替えでは現在グラウンドにある備蓄倉庫を4階にもってあがるということと、いまの備蓄倉庫よりも容積を3倍くらい大きくする計画とさせていただいている。

13 町からのお知らせ

- 説明会終了の前に町よりお知らせをさせていただく。先日新聞の紙面にも記事が出ていたが、海田東小学校の校舎建替にあたって、クラウドファンディングを実施する予定である。クラウドファンディングはふるさと納税の仕組みを活用して寄附の使い道を具体的に指定して、寄附を募集するものである。受付開始は来年1月を予定しているが、目標金額や寄附特典を含めて現在、詳細を検討しているところである。詳細が決まり次第、「広報かいた」や町のSNS等でお知らせするので、ご支援ご協力のほど、よろしく願いたい。

14 町長閉会あいさつ

- 皆様、本日は説明会にご出席いただき、誠に感謝申し上げます。現在、実施設計中という説明をさせていただいたが、順調にいけば、来年の10月中をめどに実施設計を完了し、その後工事を発注する手続きに入り、おおよそ3年後の令和10年9月に新しい校舎での供用開始となる予定である。今の学年で言うと3年生がちょうど6年生の2学期から新しい校舎で半年間学んでいただけるということである。また、保育所に通っている年少のお子さんが1年生の2学期からご使用いただけるという状況になる。冒頭でもご挨拶を申し上げたとおり、海田東小学校の児童たちが「また来たい、明日も行きたい」と思って頂けると共に、地域の皆様からも「地域の宝だ」というご評価を頂ける施設になるよう着実に今後も事業を進めて参りたい

と考えている。冒頭に担当職員からご案内もあったように、今般、物価上昇も見込まれる中で、我々としても金策をして行かないといけないということで寄附制度としてクラウドファンディングを行うものである。まだ寄附特典は未定であるが、例えば芳名板に寄附金額に応じて名前を載せさせて頂くというようなことも考えている。これは一生ものであるので、ぜひご厚意を頂けたら幸いである。時間となったので本日の説明会を終了させていただくが、改めて本日ご参加頂いたこと、誠に感謝申し上げます。